府中市立府中第十中学校　令和7年度学校経営報告

＜学校経営「本年度の取組」＞ 教育目標「・基礎学力をしっかり身につける ・正しい判断力を養う ・積極的に体力づくりをする ・なにごとも進んで実践する」

令和7年度学校教育目標 ～大人になる練習をし、夢をかなえる土台を築く生徒の育成～（キーワード:「信頼」「温もり」「笑顔」）

項目	具体的な方策	数値目標	考　察	改善策
確かな学力	①「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の4つの視点を取り入れた授業の実践。 ②話し合いや教え合いの場面を取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善。 ③各教科等問題解決的な学習や体験活動を通して、「協働的な学び」の充実。 ④ 一人1台タブレット端末等を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実。	**※授業に関するアンケートの肯定的評価目標:①～③は80%以上、④は70%以上を目指す。** ①その日の授業の目標（ねらいや4つの視点（「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」）など）がよくわかりますか。➡94.3% ②-1自分で考えたり、調べたり、発表（表現）する等、主体的に取り組む時間が設けられていますか。➡93.8% ②③生徒同士、または生徒と先生とで話し合ったり、生徒同士で教えあったりする場面がありますか。➡92.0%□ ④-1クロームブックを活用して学びを深める場面がありますか。➡82.7% ④-2十中の先生方は、ICT機器の活用を進めるなど、積極的に授業の工夫・改善に取り組んでいると思いますか。➡93.2%	○マグネットシートの活用により、授業における「発見・対話・決定・表現」の4つの視点が可視化された。今後は、学習のねらい（ゴール）との関連づけをさらに強めることで、生徒が学習の見通しを持ち、学習を自己調整できるようにする必要がある ○授業改善によって主体的に取り組む時間は各教科で設定されている。引き続き、生徒が自ら思考・表現する場面を拡充していくことが求められる。 ○話し合いや教え合いの場面は概ね設定されているが、一部教科では十分とはいえない。協働的な学びが形式的にならないよう、質と量の両面からの改善が必要である。 ○ICT 活用への評価は改善が見られるものの、教科間で活用の度合いに差がある。授業アンケートの目標は達成したが、学力の定着に結びついているか、引き続き検証が必要である。	**【学習ゴールと4つの視点の関連付け強化】** 学習のねらいと4つの視点を一体的に示し、生徒が学習の流れを理解しながら振り返りに生かせるような授業改善を進める。 **【主体的・協働的な学びの深化】** 話し合いや教え合いの「質」と「時間」を高め、生徒が自ら学びをつくる授業への転換を一層進める。 **【ICT活用の推進】** ICT支援員の授業内での活用を強化するとともに、年度当初の単元計画段階で ICT活用場面を明確にし、効果的な活用を推進する。
豊かな心	①暴力やいじめを許さない人権尊重教育の推進を通して、心豊かで他者を尊重する生徒の育成。 ②教育活動全体において、「自己存在感の感受」「共感的な人間関係」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」を実践し、生徒の自己指導能力の育成を図る。 ③道徳科を軸に心の教育を充実させ、自己の生き方、在り方の学習を通して、自己実現を目指す態度を培う。 ④カリキュラム・マネジメントの視点で地域等との連携を一層充実させ、体験学習やボランティア活動等を推進し、地域社会の一員として自覚できる生徒の育成を図る。	**※学校評価関係項目の肯定的評価目標:①～③は80%以上、④は70%を目指す。** ①あなたは、いじめや暴力のない学校にするよう意識をしていますか。➡94.0% ②あなたは、十中での生活は楽しいと感じていますか。➡92.1% ③道徳の授業は、自分自身の心の成長に役立っていますか。➡87.3% ④あなたは、地域の行事（お祭りなど）やボランティア行事に関心を持っていますか。➡69.3%	○学校全体で組織的に取り組んだ結果、生徒の評価も高い。引き続き、学校・家庭との連携や研修等により、人権意識をさらに高める必要がある。 ○学校生活を「楽しい」と感じる生徒が多く、教員との関係も良好である。一方で、「全くそう思わない」生徒も一定数いるため、自己指導能力の育成を全教育活動で推進することが課題である。 ○ローテーション道徳などにより、生徒の思考を深める授業が実践できている。今後は、より深い議論を促す発問の工夫が求められる。 ○地域貢献プロジェクトチームの活動は高く評価されているが、地域行事への関心は目標値に達していない。地域と関わる機会のさらなる創出が必要である。	**【いじめ未然防止の強化】** セーフティ教室や道徳を通して人権意識を高めるとともに、学校・家庭・地域と連携して未然防止の仕組みをより充実させる。 **【安心して過ごせる学級・学校づくり】** 誰もが自分の 良さを発揮できるよう、自己指導能力を育む教育活動を継続し、安心・信頼の風土づくりをさらに推進する。 **【道徳科の授業改善】** ローテーション道徳を継続し、教員の得意分野を生かしながら、生徒の価値観を広げる発問づくりを強化する。 **【地域連携による自己有用感の向上】** 地域行事や教育資源の活用を一層進め、生徒が多様な人と関わる機会を増やすことで、地域への関心と自己有用感を高める。
健やかな体	①健康と安全を意識させる指導を工夫し、行事や生徒会活動など、生徒が主体となって取り組み自己肯定感や自己有用感を育む活動を充実させる。 ②基本的な生活習慣を主体的に身に付けさせるとともに、健康と安全についての理解を深めさせる。 ③教育相談機能を充実させ不登校・特別支援教育など、健全育成上の課題に対してきめ細やかな対応を図る。	**※学校評価関係項目の肯定的評価目標:①～③は80%以上を目指す。** ①-1あなたは、健康・安全・防災の学習に意欲的に取り組んでいますか。➡87.3% ①-2あなたは、学級活動（係活動）や生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。➡92.0% ②-1あなたは「明るい挨拶」ができていますか。➡86.1% ②-2あなたは「きれいな学校」を心がけていますか。➡93.0% ②-3あなたはチャイム前着席など、「時間を守る」ことができていますか。➡91.0%□ ③学校は、あなたの悩みや相談に適切に応じてくれていますか。➡92.6%□	○防災スクールや救命講習、避難訓練などにより、生徒の意識は高まっている。熱中症対策においても、生徒が自ら身を守る力が育っている。 ○教職員の支援のもと、生徒が役割を果たしながら主体的に活動できている。 ○本校スローガンの浸透に伴い、あいさつ・時間を守る態度など基本的生活習慣が定着しつつある。 ○相談対応の評価は高く、生徒が困り感を言語化し支援につながる体制が整っている。	【防災教育の体系化】 スクール・コミュニティ協議会を中心に、地域が主体となった防災スクールを実施する。また、実施実効性の高い避難訓練を複数の形態で実施し、生徒・教職員双方の防災意識と実践力を高める。 【生徒会活動の価値を高める運営】 生徒会役員の思いを活動に反映できるよう、生徒と教職員・PTAや関係機関が協働しながら、地域とつながる活動（校内カフェなど）を次年度も企画・実施する。 【一人ひとりに寄り添う相談・支援体制の強化】 学校に行くことが楽しくない生徒の存在を踏まえ、居場所づくり、相談しやすい環境づくりをより一層進める。
学校力	①育てたい児童・生徒像を具現化する小中連携を一層推進する。 ②PTA、スクール・コミュニティ協議会、青少年対策第十地区委員会、地域等との連携を推進し、地域に開かれた学校、地域とともにある学校を目指す。 ③自立に向けた学びと育ちを支援する特別支援教育、サポートルーム等一人ひとりに応じたきめ細やかな支援体制を構築する。	**※学校評価関係項目の肯定的評価目標:①～③は80%以上を目指す。** **＊学校評価に項目を設定していないものは、実践した事柄について記載します。** ①年3回の小中連携の日を軸に、目指す子供像「自ら学び、考え、主体的に行動する子」「多様性を認め、地域や仲間とともに生きる子」の共通理解を図った。 ②地域貢献プロジェクトチームや校内カフェ、西府文化センター祭りでの吹奏楽部の演奏や青少対開催ブースでのボランティア、青少対ふれあい音楽会において、生徒の成長を一緒に支えていただいた。 ②あなたは、地域の行事（お祭りなど）やボランティア行事に関心を持っていますか。➡69.3% ③-1不登校出現率は12月現在6.21%、サポートルーム利用率は76.2%。 ③-2学校は、あなたの悩みや相談に適切に応じてくれていますか。➡92.6%□	○年3回の小中連携の日を軸に、目指す子供像について共通理解を図ることができた。五小運動会ボランティアなど、中学生が小学生の手本となる機会も生まれている。 ○校内カフェや地域貢献プロジェクトチームの活動を通して、地域とのつながりが深化した。今後は、教職員・地域双方の負担感なく持続可能な仕組みづくりが課題となる。 ○不登校出現率 6.21%、サポートルーム利用率 76.2%から、支援の成果は見られる。今後は卒業後も見据えた継続的な支援が必要である。	**【より実効性のある小中連携の構築】** 小学校と相談をしながら、小中連携の日の分科会の構成を見直し、ICTも活用しながら小中の教員が日常的に連携しやすい仕組みを整える。 **【持続可能な地域連携の推進】** 校内カフェやボランティア活動を継続しつつ、地域行事や学校行事への参加を促す情報発信を強化し、関係性を深める。 **【個別支援・進路支援の体制づくり】** サポートルームを効果的に活用し、進学後を見据えた支援を行うため、3月に高校教員を招いた説明会を開くなど、連続性のある支援体制をつくる。

「変化の大きい時代の中で、自分らしく、そして、周りと協力をしながら、たくましく未来を切り拓く生徒の育成」を目指し、次年度（令和8年度）から教育目標を次のように設定する。

令和8年度からの教育目標 【「自ら学び、共に育ち、未来を創る」・自律 ・協働 ・創造】